

佐久近辺の美術批評について

たかはし びわ（作家）

「佐久近辺の美術批評」は、2009年～2017年にかけて、年に2回というペースで、わたくしめが様々な方に原稿をお願いして発行いたしましたフリーペーパーでありました。

佐久地域でもいろいろな展覧会が開催されておりますが、世界的なアーティストや注目の若手などはマスコミに取り上げられますが、それ以外のある意味弱小作家たちについては無視されるのが一般的であります。それらは取り上げる価値が本当はないのか、せめてレビュー的なものがあれば、との思いで、始めてみたのでした。お願いした方々の様々な視点から語られた佐久地域の美術は、私の意図した展覧会レビューのみならず、これからこうなって欲しいという提言や、作家としての日常を綴ることでも何かを語ろうとしたものなど、多様な姿を見せておりました。

発行し始めた時から15年経った2024年現在、発行当時と比べて変わったこともたくさんありますが、美術やアーティストを取り巻く状況やそれぞれの方が指摘された問題点は、今書かれたと言ってもいいくらいであり、弱小作家たちの無視され具合もまた同様であるように思われます。つまり、それぞれの方が書いてくださった事柄は、当時の記録としてもある価値を有しておりますが、今読まれるべき内容を含んでもいる、ということでもあります。

この度、小海町高原美術館アーカイブスにご収録いただき、美しくリニューアルされた形でお読みいただくことができるようになりました。ぜひお読みいただき、佐久の美術についての思考をめぐらせていただけましたら、幸いです。また、とても価値ある原稿をお書きくださった皆様には、この場をお借りして、改めまして御礼申し上げます。小海町高原美術館の皆様にも御礼申し上げます。

(2024.10.27)

※ この度、「佐久近辺の美術批評」（全18回分）を、小海町高原美術館アーカイブスに収録することとなったのを機に、長くこの活動を担ってきた作家、たかはしびわ自身に活動を振り返っての言葉をいただき、「はじめに」とさせていただきます。

※ 「佐久近辺の美術批評」は、作家たかはしびわが2009～2017まで全18回にわたり発行した美術批評フリーペーパーであり、小海町高原美術館アーカイブスでは、たかはしびわの協力のもと、当時の記録・表記をそのままに記載させていただいています。